

説 教 聖日礼拝 (KIBC 年間聖句) 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2023年4月16日 (日)

主 題：「豊かな人生を過ごす条件」  
—恵みの基軸—

聖 書：詩篇37篇30—34節

### はじめに

- ・ **おはようございます。**
- ・ 今年の年間聖句（詩篇 37 篇 3 4 a, b）を読みましょう。  
**37: 34 主を待ち望め。主の道を守れ。主はあなたを高くあげ 地をうけつがせてくださる。 詩篇**
- ・ 2023年4月に入り、新年度が始まりました。学校、会社、行政機関などは全て新しいスタートを始めました。新年度が神に祝福される1年となりますよう、願います。
- ・ ところで、私たちは一度しかない人生を、幸いな人生として過ごしたいと願います。なぜなら、人生はリピートできないからです。人生は貴重です。貴重な人生を私たちが有意義に過ごすことは、神も喜んでくださいます。
- ・ 今の時代、世界情勢はますます混沌としてきました。不必要な戦争は今も続き、民族間の衝突は各地で発生しています。それに各地で発生している大地震、旱魃、食糧危機、森林火災、シベリアでは永久凍土が溶け始め、さまざまな自然災害が発生しています。
- ・ 残念ながら、世界各地で色々な悪が横行しています。日本も例外ではありません。金持ちの高齢者リストがネット販売され、高齢者が容赦なく襲撃され現金や貴金属が奪われています。
- ・ そればかりか最近、犯罪は組織化され、強盗目的を達成するために、手段を選ばず、尊い人命を奪ってしまう恐ろしい事件が発生しています。理不尽な事件が多発しています。それが、私たちが生きる社会です。
- ・ ところで、社会の基準は時間の経過に従い変わります。その代表的なものは法律とか条約です。例えば50年前、100年前の法律はもう古くなっています。時代にあった法律が求められています。
- ・ しかしながら、創造神の前での律法（聖書）は昔も今も変わりません。

聖書は、このように語っています。

40:8 「草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことばは永遠に  
立つ。」 イザヤ

神のみことばは、時代を越えて変わることがありません。

- ・神は、神の前に「正しい人」と、「悪しき人」がいることを区別されます。そして、全く異なる結末を用意しておられます。

ローマ人への手紙 3 章

3:10 次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。一人もいない。

3:11 悟る者はいない。神を求める者はいない。

3:12 すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。」

- ・「義人はいない。一人もいない。」と聖書は、人間は生まれながら罪ある、弱い存在と記しています。

それでは、なぜ神は弱い人間を祝福くださり「正しい人生」、「幸いな人生」へと導いてくださるのでしょうか。

- ・今日は新年度の年間聖句（詩篇 3 7 篇 34 節）から、私たちが豊かな人生を過ごすための基軸について学びたいと思います。

## 大切なポイント

### 1. 正しい人はみことばを心に置く

#### 1) みことばの前に立つ

- ① 神の前では皆、弱い、罪の性質を持っている者が、どうして清く正しい歩みができるのでしょうか。それは私たちが生きる上で良いメンターが必要なように、神の前でも同じように良いメンター（導き手）が必要であるからです。私たちが過ちを犯さないように、先導する良いメンターが必要です。

- ・それは神ご自身です。神は私たちが正しく導くために、みことば（聖書）を与えてくださいました。 詩篇 1 1 9 篇

119:105 あなたのみことばは私の足のともしび 私の道の光です。

神のみことばは、足元を照らし、正しい道を示すメンターです。

また、みことばは私たちが悪の道へ進まないように先導してくれます。

- ② 悪を避けることができる

- ・詩篇作者は次のように歌いました。 詩篇 1 1 9 篇

119:11 私はあなたのみことばを心に蓄えます。あなたの前に罪ある者とならないために。

- ・みことばを心に置くと、➡ 行動基準が定まる  
ですから、みことばの道を歩むことは大切です。

## 2) みことばの道を歩む

### 詩篇 37 篇

37: 34 主を待ち望め。主の道を守れ。主はあなたを高くあげ 地を受け継がせてくださる。

- ・私たちは神に救われた者として、神の恵みにふさわしく生きるために、みことばに耳を傾け、みことばを心に刻んで歩みましょう。それは豊かな人生を過ごす人です。世界には数多くの思想や哲学、宗教があります。しかし、誰も永遠の真理は教えていません。神のことばが永遠の真理です。昔も今も、そしてこれからも人生を正しく導く神の書です。
- ・新年度、私たちは豊かな人生を過ごすために、神のみことばに従い歩みましょう。詩篇 37 篇は次のように歌っています。

37: 34 主を待ち望め。主の道を守れ。主はあなたを高くあげ 地を受け継がせてくださる。

## 2. 正しい人は神の助けを求める

### 1) 人間の实像

- ・私たちは人生で、大小さまざまな苦難に直面しますが、その時の態度には2種類あります。
  - ① 神に近づき助けを求める人
  - ② 神を恨んで遠ざかる人
- ・思い出してください。イエス・キリストが十字架におかかりになられた時、二人の犯罪人も十字架につけられました。その時、彼らは次のように言いました。
 

ルカの福音書 23 章

20:39 十字架にかけられていた犯罪人の一人は、イエスをののしり、「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言った。

23:40 すると、もう一人が彼をたしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。

23:41 おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。」

23:42 そして言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」

- ・正しい人とは、自分の姿を正直に見る人です。自分の力では生きられないことを、謙遜に認めます。しかし、悪しき者は苦難の中で高慢を捨てられません。私たちは間違っても、悪しき者となってはいけません。
- ・正しい人の特徴は、神と交わりがあります。  
神との交わりは：
  - ① 日々の「デボーション」に始まります
  - ② 安息日を守り、礼拝を基軸とする  
そこで、みことばにふれ、主のご臨在にふれる幸い

## 2) 神との幸いな交わりに生きる

- ・神との交わりには平安、安息があります。神が定められた安息日は、十戒の中にも定められている「神のおきて」です。安息は神からのプレゼントであり、そこには神の教訓が秘められています。少なくとも次の点が挙げられます。

### ① 安息は過ぎた時間を振り返らせる

- ・普通は、なぜ休むのですかと聞くと「疲れたから休む」と言います。しかし、聖書は次のように記しています。 **創世記 2章**  
**2:1 こうして天と地とその万象が完成した。**  
**2:2 神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた。**  
**2:3 神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。**
- ・神は疲れたから休まれたのではありません。すべてを完成されたから休まれたのです。それまでの六日間の創造を振り返られました。

- ・神がすべてのわざを終えられ第七日に休まれた目的は、安息を楽しみ、私たちと一緒に幸いを味わい、祝福するところにあります。安息は感謝の心を回復させる時間です。忙しく、追われるような日々を送っていると、私たちは感謝を失いやすくなります。
- ・安息は、どんな恵みを受けたか、どこで誤ったか、また繰り返してはならないことはないかを、振り返らせてくれます。そうすれば、後悔することもあります。それまでの一步一步を私と共に歩んで下さった「**神の恵み**」に気づくことができます。神の御手を感じて悟り、恵みを見出す時間、それが安息です。

### ② 安息は新しい創造のために止まること

2:3 神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。

- ・この聖句には、神の創造の理由が秘められています。

#### (1) 「祝福」

- ・神は安息日を祝福されました。私たちが「安息のおきて」を守り、安息の時間を持つ時、神は私たちを祝福し、天の倉を開いてくださいます。そして

#### (2) 「聖とされる」

- ・この「聖とする」ということばには、区別するという意味があります。神は私たちの日常の忙しさから区別された時間、場所、出会いを願っておられます。安息は、私たちを振り返らせてくれます。

#### 『例 話』

- ・車で最も危険なことは、ブレーキが故障した車です。止まらなければならない時に、止まることができなければ事故になります。安息日で止まることは、新しい出発（創造）のために時間です。その意味で、人生の休止符は、人生のブレーキと言えましょう。
- ・安息は何もしないのではありません。美しく、意味ある人生にするために区別し守る時、安息は創造（新しい出発）となるのです。

### ③ 安息は未来に備えること

- ・神は第七日目に安息を置かれましたが、そこには深い意味が込められています。それは神が創造された人間をケアし、人間と一緒に過ごす未来を計画されました。
- ・渡り鳥は長距離を飛びますが、羽根が重荷とはならないでしょう。安息は私たちにとって重荷ではなく、空を飛ぶ羽根となります。安息は未来を準備するための機会となります。
- ・私たちが本当の意味で平安（心の安らぎ、安息）を失ったのは、私たちの罪の結果です。罪は私たちから平安と余裕を奪い取ります。そして不安や不平、恐れを植えつけました。しかし安息日に、イエスの元に来れば平安が与えられます。 **マタイ福音書 11 章**

11:28 **すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。**

- ・安息は、真の故郷である天のエルサレムに向かう巡礼者であることを、思い出させてくれます。安息は、神の臨在の中で未来に備える時間です。何という幸いでしょうか。

◎ ここで、少しまとめてみましょう。

「安息」は、「わたしがあなたがたを休ませてあげよう」という主の声を聞く時間です。3点教えられました。

- ① 安息は時間を振り返らせる
  - ② 安息は新しい創造のために立ち止まらせる
  - ③ 安息は未来に備える時間である
- ・私たちはそのような安息の中で、感謝の心が湧いてきます。  
人生は速度よりも方向を大切にすることです。そこに神の創造と摂理を見出すことができます。人生の宝である「安息」を通し、神の祝福を味わうことができるのです。詩篇 37 篇は次のように歌っています。詩篇 37 篇  
**37: 34 主を待ち望め。主の道を守れ。主はあなたを高くあげ 地を受け継がせてくださる。**
  - ・私たちは 2023 年度という新年度を迎えました。  
神から祝福をいただき、豊かな人生を過ごそうではありませんか。

## ま と め

主 題：「豊かな人生を過ごす条件」

—恵みの基軸—

**37: 34 主を待ち望め。主の道を守れ。主はあなたを高くあげ 地を受け継がせてくださる。**

- ・主は私たちに、大切な点をお語りくださいました。
  1. みことばを心に置く歩み  
神の書であるみことばの前に立ち、みことばの道を歩むことです。
  2. 神との交わりに生きることです。
- ・神との交わりは日々の「デボーション」にあります。そして「神のおきて」である「安息」に生きることです。安息は；
  1. 安息は時間を振り返る
  2. 安息は新しい創造に立ち止まる
  3. 安息は未来に備える時間である

\* God bless you!